

全国プログラム委員会からのお知らせ（全国研究大会報告募集）

池田伸（全国プログラム委員長）

第 68 回全国研究大会の企画セッションの設置と報告者の募集について

2024 年度第 68 回全国研究大会は、立命館大学を開催校として、以下の日程・会場で対面のみで行います。

日程：2019 年 9 月 12 日（木）、13 日（金）

研究大会、会員総会（12 日）

理事会：9 月 11 日（水）午後

会場：立命館大学（大阪いばらきキャンパス OIC）

前号のニューズレターでセッションの企画案を募集したところ、多くの企画をご提出いただきありがとうございました。これらについてプログラム委員会において審議した結果、次の企画セッションを設定することとなりました。

つきましては、会員のみなさまからの研究大会での報告のご希望を募ります。下記の要領でお申込みください。なお、会場の事情等により企画セッション間の調整、一般報告（自由論題）希望者の企画セッションへの参加、あるいは追加セッションでの報告など、プログラム委員会が必要な調整を行なう場合があります。そのような際にはご協力よろしくお願ひします。

1. 報告申込み要領

【報告者の資格】

本会会員。

- ①. 今年度までの会費を7月までに納めていること。
- ②. 複数名による共同報告において原則として全員会員であること。非会員が含まれる場合は『統計学』投稿規程に準拠することとしますので、念のため事前に本プログラム委員会にご相談ください。
- ③. 団体会員は、種別の人数限度内での報告が可能です。

【応募締切】

2024 年 5 月 31 日（金）必着

【申込み方法】

「全国研究大会報告申込みフォーム」で申込ください。

1) 申込みフォーム（ワードファイル）は、学会のウェブサイト（<http://www.jsest.jp/>全国研究大会/）からダウンロードできます。

（最後のページにあるものと同一です）

2) 必要事項を記入済みフォームを添付し、大会プログラム委員長池田伸宛（ikedas@ba.ritsumei.ac.jp）に送付してください。なお送付に際しては、メールの「件名」に「大会報告申込み」と明記してください。

3) 報告の採否は改めて委員会から応募されたみなさまに連絡します。報告が確定した場合は、日程に従い報告要旨集の原稿を提出していただきますのでご予定ください。

2. 報告募集セッション

みなさまの研究報告を募集するセッションです。各題名は現時点での仮題です。以下の一般報告または企画セッションからご希望に近いものを選択してご応募ください。

2-1. 一般報告（自由論題）

自由論題での一般報告を募集します。募集後に、関連性の強い報告は新たにセッションのテーマを設置することもあります。

2-2. 企画セッション

1) 労働・生活・福祉問題と統計

提案者：水野谷武志（北海学園大学）

労働統計研究部会では、部会員が取り組んでいる最新の研究テーマについて、多様な報告者でセッションを構成することが部会及び学会の活性化につながると考えた。そこで労働・生活・福祉問題に関連する分野で研究に取り組んでいる会員で構成したセッションを設置したい。

2) 統計史を考える

提案者：小林良行（関東支部）

本企画セッションは、わが国の統計学研究における歴史的観点の重要性の再認識を促すことを目的として設けるものである。本セッションでは、明治維新前後から現在までを基本的な時間的範囲として、諸外国とわが国の統計学上のかかわりを含め様々な角度からわが国の統計史を捉えることを視野に入れている。

3) 産業連関分析と経済社会

提案者：橋本貴彦（立命館大学）

現在の資本制社会下での経済現象は、私企業による国

際間や地域間の分業によって、複雑さを増している。特定の国の巨大な需要をめぐる生産の実態が、社会構成員からみて、可視化されているとはいえない現状が広がっているのも一つの例である。Leontief の開発した産業連関分析の枠組みをあらためて振り返り、様々な経済や社会問題に応用して検討していく必要性が高まっているといえる。そこで、本セッションでは、国際分業、所得格差、環境などの諸問題について、広い意味での産業連関分析の枠組みで検討することを目的とする。

4) 国民経済計算及び国際収支統計に関する課題

・提案者：櫻本健（立教大学）

国民経済計算体系、国際収支マニュアルは次期改訂に向けてマニュアルドラフト公表が始まっている。各国統計部局も改訂準備が進んでいる。

グローバリゼーション、ウェルビーイング、デジタルイゼーションの主要テーマに加えて、計測すべき各種問題を取り上げる。

5) 地域の諸課題と調査・統計分析

・提案者：菊地進（東北・関東支部）

人口減少が急速に進む地方のみでなく、都市部においても高齢化の問題が深刻化してきており、防犯・防災、子育て、介護、地域医療、地域福祉、公共施設の維持、公共サービスのあり方など、地域の課題が山積みとなっている。これらの諸課題は、行政サービスの改善のみで解決できるものでなく、地域の各層の協働・共創が強く求められている。

そのためには、地域の現状を掘り下げ共有認識が広まっていくことが大事である。そこで、地域において山積する諸課題との関わりで進められている調査・統計分析を報告していただき、地域の諸課題の検討を深めるセッションを設けることとしたい。

6) ジェンダー平等と統計

・提案者：ジェンダー統計研究部会

世界でも日本においても、ジェンダー平等は少しずつとはいえ進展が見られたものの、コロナによるパンデミック以降、ジェンダー不平等は深刻になっている。こうした状況を捉えようと、ジェンダー統計の重要性の認識は広がっている。実際、国連によるジェンダー統計制度の調査（2022年）によれば、過去10年と比較して、統計の利用者と作成者の協力やジェンダー統計担当部署の設置などの進展がみられたようだ。日本は、ジェンダー統計制度の構築という点でも遅れている、といえないだろうか。国内外のジェンダー統計活動および統計によるジェンダー分析について、今年度も検討をしていきたい。

7) 宿泊旅行統計調査のマイクロデータを用いた実証分析

・提案者：大井達雄（立正大学）

訪日外国人旅行者数の急増などを背景に、観光市場は回復基調にある。しかし、地域間で状況は大きく異なる。こうした地域性を把握するためには、マイクロデータを用いた実証分析が有効である。本セッションでは、宿泊旅行統計調査のマイクロデータを用いた実証分析に関する関連報告を通じて、宿泊市場における COVID-19 の影響などを理解することを目的とする。さらに、今後の研究の可能性についても活発に議論したい。

3. 今後の日程（予定）

5月31日（金） 報告応募〆切

6月中 報告希望者への採否通知、報告タイトル確定プログラムの確定、発送

8月2日（金） 報告要旨集原稿（A4判2枚）

原稿ひな型を送付しますので、それに沿って要旨を作成ください。原稿をそのまま印刷しますので、添付ファイルで送信してください。

9月12, 13日 全国研究大会・総会

以上はおよその予定です。該当のみなさまには適時に別途ご連絡します。

4. その他

①大会開催について不明の点などあれば、各支部のプログラム委員にお尋ねください。

[北海道支部] 鈴木雄大

[東北・関東支部] 伊藤伸介・高橋雅夫

[関西支部] 池田伸（委員長）・村上雅俊（副委員長）

[九州支部] 高橋将宜

②本部企画セッションは報告者の公募は行いませんので、このリストには掲載されていません。個々にご協力を依頼する等することがありますので、よろしくお願ひします。

③研究大会での討議の充実のために、報告希望者の方には、事前に所属支部の例会等での報告をお勧めします。

④宿泊・交通につきましては、各自にてご手配ください。早めの予約をお勧めします。